

令和二年度 全国納税貯蓄組合連合会会長賞

「支え合う未来へ」

上牧町立上牧中学校 三年 鷲谷 春空

僕の祖父は癌だ。僕が小学生になる頃癌が見つかった。家族にも弱音を吐かない祖父の癌は、見つかった時すでに進行しすぎている。

手術は一日がかりだった。僕は大好きな祖父の無事を祈り、手術は成功した。しかし取りきれなかった癌が少し残った。

隣の県に住む祖父の家に遊びに行くと、今も一見何も無いような笑顔で祖父は僕達を迎えてくれる。ただ壁には毎日飲むたくさんの薬が、飲み忘れないようカレンダー式のウォールポケットに入れられている。その中には高価な抗ガン剤もあるようだ。定期的に検査も受けているし、風邪をひくだけで重症化し入院することもある。

母は祖父の体の心配とともに仕事を引退している祖父と祖母の金銭的な心配をしていたらしい。ある日祖母にこっそり尋ねると、高額医療費制度という税金に助けられていると聞いたそう。

高額医療費制度とは、同一月にかかった医療費の自己負担額が高額になった場合、一定の金額（自己負担限度額）を超えた分が、後で払い戻される制度らしい。

僕は普段病院にかかる時、受付で保険証を出す時に税金で7割負担してもらえる公的医療保険は知っていた。それはとてもありがたいことだと思っていたけど、すごく高額な治療を受けたなら残りの3割でさえ大変な額になると思い、大きな病気や怪我をするのが怖い人も多だろうと思っていた。

僕は祖父が少しでも金銭的な不安を少なく治療していけるこの制度に心から感謝した。

たくさんの誰かが納税してくれたお金が祖父の命を支えてくれて、周りの僕達の笑顔にも繋げてくれた。考えてみれば、祖父もこれまで納税してきたお金で、見知らぬ誰かの命を支え笑顔を繋いできたのだろう。

さらに僕が今病院の受付で保険証と一緒に出している黄色の紙は、こども医療費助成制度という税制を使わせてもらっているのだと母から聞いた。中学校を卒業する3月31日までの子どもの医療費の負担額がほぼ無料になるらしい。同じように病気や怪我の多い高齢者には、後期高齢者医療制度という税制があることも調べてみてわかった。

僕はこのことをきっかけに、身の周りの税金の使い道を調べた。身近なものだけでも、公園、ゴミ処理、消防、救急車、警察、役所、水道、図書館の運営や道路の整備、毎日使っている教科書等、たくさんのものが税金で支えられているのだと実感した。

見知らぬ大人達の納税の恩恵を、まだちゃんと納税していない僕達子どもも受けて生きている。税金によって支え合う未来を繋いでいくには、僕もちゃんと納税する大人になって、今まで色々支えてもらった分、支え返していきたい。税金の還元の大きさを知り納得するほど、みんな支え合うため前向きに納税できるのかもしれない。